

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会

♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK 会 報

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第618号

(毎月10日発行) 2023年9月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 福井 紀郎

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥ 2023. 9. 10 ♥♥ No. 183 ♥♥♥♥♥

「ことばの教室」の指導での『専門性』とは



特定非営利活動法人
ことばを育てる親の会北海道協議会
理事 石川 俊 男

北海道協議会の毎年の事業・活動計画の方針の中に、『教育的なニーズに応じた専門性の高い指導を受けられるようにする。』という文言が入っています。私は学校現場から離れてすでに10年以上となりましたが、新卒から定年退職まで勤めた「ことばの教室」の指導での『専門性』という視点を振り返ってみようと思います。

「ことばの教室」での個々の子どもの指導には、マニュアルはなく、また個別の教育支援計画は担当者が考えなくてはなりません、一人ひとりの子どもに応じたものが必要なのです。

新卒のころは、何も分からず、先輩に何を聞いてよいのかも分からない状態、「教科書」と言われている本を読み、指導場面の記録者からの出発でした。何を記録するのも分からず、子どもの声は聞き取れず、ほとんど何を話しているのか理解できない自分がいました。5年目に、1年間の教育大学の長期研修の機会をもらい、学生生活を送りました。1年して現場に戻ってきました。知識はそれなりに得たと思っていましたが、何かかみ合わない、子どもを前に、右往左往している自分がいました。子どもとどうやり取りするかはよく分かっていなかったと思います。

子どもへのことば掛けは、たったひと言でも重要です。それは何のために、どういう反応なり、返ってくることばを予想していたのか、声かけしたことで、子どもはどう応じたのか、結果的に場面の展開として良かったのかどうか等を考察することは担当者としては必要なことです。

「レポート」を取るということばが結構簡単に使われることがありますが、「相互の信頼の関係」は指導を進める上での土台にあることは当然なのですが、その土台作りそのものが、指導にとって大切と考えるようになりました。

担当者が提示した、課題にのらない状況を、子どもの集中力や根気のなさ、課題解決意欲に欠けるなどと、子どものせいと考えることがありました。「課題」が今は、今日は適切でなかったと、早く気づけ

ばよかった…これは本当に多くの子どもたちから教えてもらったことです。正音の定着で母音との練習中に他の活動をし始めた子、待合室のメダカの水槽に、全部のエサを全て入れてしまった子がいました。子どもはことばではなく、行動で示してくれました。子どもなりの言い分があったのでしょう。

「子どもからの要求」を受け、子どもの言い分で分かったことを言語化して返すようにしました。やがて「次何やるの」と意欲的に課題に取り組み、「今日もあれやりたい」と積極的に活動する子は次第に増えていきました。

担当者側が用意した、発問、課題を中心とした活動からは、子どもの本音や、気持ちをくみ取るとは、難しいものです。自発的に選択できる活動の場を事前に意図的に用意し、「子どもからの要求」に応じた形で指導を進めていくことは、子どもとの信頼関係を築き、人と一緒にいて安心、不安がない状況を作り出し、子どもの本音の部分での自己表出をより活発化することにつながっていきました。

指導中に記録を取ることは、大事にしてきました。やりとりしながらですから、もちろん全てとはなりません、特に子どもが自発的に話し出したことは、こちらの活動を止めてでもメモするようにしていました。なお、指導後の記録には、指導中とは別の色のペンを使って、感想や考察と分けておく有効でした。指導の方法は子どもが教えてくれるという言い方があります。毎日の記録の積み上げは、指導方法の振り返り、指導のねらいの方向性を考える上で重要な根拠となるものです、仮説を立てて実践し、修正すべきは修正し、新たな仮説を積み上げながら進めていくことです。迷ったら、記録を読み返す、その繰り返しは本当に大切だと思います。

構音に課題がある子に、なぜ構音獲得が出来ていないのか、原因は何なのかの考察することも大切です。発達的な課題があるのか、聴力的な問題や鼻咽腔閉鎖不全等、がないのかの見極めも必要です。相手の声を聴きたい、聴こうとする関係、一緒に活動することが楽しい、話すことで、安心したり、楽しかったり、気持ちが穏やかになると感じてもらえることが大事でした。

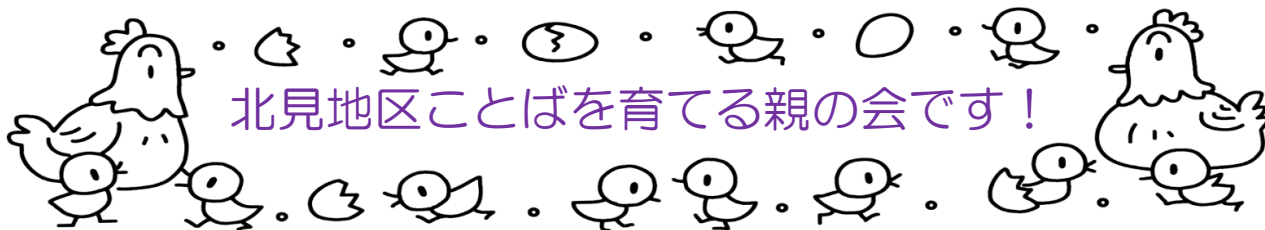
話しかたに注目を付けられたりしたことで、話す気もなくなりかけた子ども、新たな音の歪みの問題を生じさせた例を見てきました。子どもは聞こえているように発音しているのです。

指導のねらいの1つを、「自己表出の活発化や、他者との積極的な相互のやり取りを広げる」とすることがありました。こんな時しばしば、保護者などから、「遊んでいるだけ?」と言われることがありました、担当者が意図した、指導のねらいをこちらが説明し、理解してもらうことが大切です。

「ことばの教室」の指導での『専門性』とは、何でしょうか、

一人ひとり、異なる特性があり、それを客観的にとらえること。なおかつそれだけにとらわれることなく、目の前の一人の子どもの「気持ちのくみ取り」に努めることが出来る、能力、知識、とかセンス、支える力量が『専門性』の一つかもしれません。子どもに安心感を与えるような活動を通して、担当者に何をしてほしいかは子どもによって違います。要求を受けてもらい、言い分を分かってもらいと満足することが増え、その子にとっての課題は解決の方向に向いていったと思われました。





北見地区ことばを育てる親の会 会長 佐々木真由美

新型コロナウイルスの影響で親の会の活動も制限されていた3年間。交流を持つことが活動の大きな意味だったのですが、それもできず、できる活動を模索し続けた3年でもありました。

そんな中、30年程前から「オホーツク管内親の会」で行っているオホーツク教育局への陳情活動は、オンラインでも実施することができました。「今、親の会でできることは…」と考え、北見市内に1校だけ開設している中学校の通級教室開設に向け動きはじめました。

北見市の教育委員会にも、どのような動きで開設されるかについてお話を聞かせていただき、“巡回通級という形が中学生のニーズには合っているかも”と教えていただきました。

各学校関係者・保護者の働きかけで、今年度より中学校には自校通級1校、巡回通級1校が開設され計3校になりました。

言語に特化した通級ではないのですが、困りを感じているお子さんに寄りそえる場ができたことをとても嬉しく思っています。

5月から感染症が5類になる…ということで、親の会の活動も少しずつ出来ることをと考え4年ぶりに対面で総会と顔合わせ会(縁日)も行うことができました。飲食などはしないという従来とは少し違う形ですが、会員同士、先生方と親子の交流ということを考え行うことができました。

先日はパークゴルフで汗を流すこともできました。

今までとは違う活動の在り方、親の会としての姿を考えながら新たに活動していきたいと思います。





『ことば』

NPO 法人ことばを育てる親の会北海道協議会
理事 福島 美恵子

先日、ある地区親の会の方から「あれ、『ことば』いいんだよね。」と、うれしい電話をいただきました。「ホント、いいんです！」思わず大きな声で叫んでしまいました。でも、残念ながら厳しい財政事情により道親の会として、地区親の会に『ことば』を一冊しかお配りすることができません。その一冊を、複数の「ことばの教室」で回覧しているとのことでした。

全国ことばを育む会は、治療教室父母の会会報として誕生し、その後情報誌としての充実が図られた『ことば』の編集を65年に渡って続けてきました。そのことを通して、先を見通した質の高い情報を分かりやすく発信、親や先生をはじめとする全国の多様な読者の共感と信頼を集めてきました。インターネット万能の時代にあって、ページを繰る紙の手触りと一緒にさまざまな筆者と出会い、活字を媒体とする対話と交流の中から、新たな気づきや発見の喜びが広がります。『ことば』は、まず出会いと学びの書であります。そして、いつでもどこでも読める手軽な冊子は、全国の関係者をつなぎ、より良い特別支援教育や福祉をみざす親の会活動の重要な社会啓発の書です。

『ことば』の特集題を最近発行されたものを中心に、いくつかピックアップしてみました。さまざまな切り口、幅広い視点から繰り返し取り上げることで、特集題はタイムリーに新しい情報や知見が加わり、より包括的なものに更新されているように思います。

親の会活動の休止にともない、ことばの教室があるのに『ことば』が届かない地区がふえていることは、残念なことです。

親の会のない(休止)地区の方も全国ことばを育む会事務局

に申し込むことで、年3回発行、送料込み年間1,000円で個人定期購読ができます。

No	発行年	特集題
307	2023年5月	コミュニケーションに難しさのある子の育ち
306	2023年1月	前を向いて歩き続ける親の会
305	2022年10月	読み書きにつまずきのある子の育ち
304	2022年5月	正しい構音獲得の道を振り返って
303	2022年1月	聴覚障害のある子どもたちの育ちとその保障
302	2021年9月	吃音のある子どもたちの育ちと支援
295	2019年9月	幼児ことばの教室と親の会の取り組み
293	2019年2月	中高生への支援を考える～本人たちの思いから
290	2018年5月	ことばの教室の先生の専門性を考える

『ことば』のお問い合わせは

- * ことばを育てる親の会北海道協議会 事務局連絡校
札幌市立中央小学校ことばの教室 TEL 011-241-2533
- * NPO 法人全国ことばを育む会
事務局長 古城 和哉 TEL / FAX 096-297-8918
E-mail: npo-hagukumukai5108@waltz.ocn.ne.jp

7月19日
～8月9日
配信

臨床研修会報告

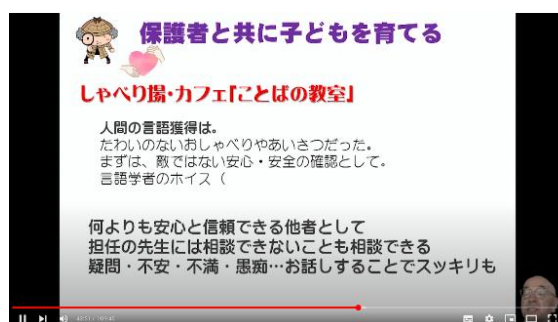
北海道言語障害児教育研究協議会
研究部 吉田 忍

☆ 第144回言語障害臨床研修会 親の会共催（動画配信）

今回は言語聴覚士の西田立郎先生に『初心のいっぽ、もういっぽ 子どもが真ん中の指導—ことばの教室が培う専門性—』と題したご講演をいただきました。構音指導を中心に西田先生が教員としてことばの教室の中で培ってきた経験を通し、大事にされてきたこと、私たちに引き継いで大事にしてほしいことがたくさん盛り込まれた内容でした

指導を進める上で大切なことに加え、保護者との関わりや、担任の先生との連携の在り方についてもていねいに説明してくださり、新しくこの仕事をされた先生だけではなく、長く携わっている先生方にも多くの示唆をいただけたと思います。保護者の方にも、ことばの教室がどんなところで、何を大事にしているか、わかりやすくお伝えできたのではないかと思います。

この研修会は7月19日～8月9日の期間で配信を行い、173名の方が視聴しました。うち、親の会会員は20名、親の会には加入されていない保護者の方が5名参加されていました。



<アンケートより抜粋>

- ・エピソード紹介もあり、子どもの話の聞き方、態度など参考になりました。（保護者）
- ・通級する児童が多様になり、ことばの教室の主軸をどこにすればいいのか迷っていたところだったので、基本を教えてもらい、ことばの教室の在り方を学ぶことができた。自分の中で、まだブレがあるので、主軸をしっかりともち、ブレない指導ができるように何度もこの動画を見て基本に戻りたいと思いました。（教員）
- ・子どもを真ん中において考える西田先生の話に、大きく心を揺さぶられました。今、自分が携わっている子どもの顔がいくつも浮かんできて、夏休み明けの通級で、どんなことができそうかたくさん考えることができました。（教員）
- ・一人の子どもと向き合う中でたくさんの方々との繋がりがとても大切だということがよくわかりました。それぞれの立場・考え方の違いを受け止めながら、協力し合い、子どもを中心により良い連携を築いていきたいと思います（幼児指導員）

発達障害について知りたいという保護者の方の声もありましたので、親の会の方からもご意見を伺いながら研修内容については検討していきたいと思います。





理事会報告

～決定・確認事項～



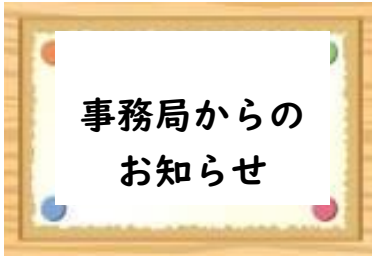
第82回理事会:6月24日(土)

- 親子デイキャンプを8月19日に開催することが決まりました。親の会会員限定ではなく、親の会会員を優先します。会員ではない方に、親の会を知ってもらえるようにします。
- 事務局を新たにお一人、お迎えすることになりました。
- 理事の人数に関して、検討が行われました。
- 北海道 NPO サポートセンターへの登録について検討が行われました。
- 総会・意見交換会について、リモートでの参加ができたことはよかったという意見が出ました。
- 会報の年間計画、次号の発行計画について話し合われました。
- 全国誌「ことば」の送付先の確認を行いました。また、「ことば」の在庫を道言協の大会の当日に、親の会パンフレットと一緒に販売する方向になりました。
- 理事の選出方法について、定款上のことを含めて、今後も検討することが確認されました。

第83回理事会:9月2日(土)



- 次回の理事会で、平成 15 年に定められた理事の規定の確認と変更を行うことになりました。その規定を踏まえて、次年度は理事の改選年度になりますので、今年度中に各地区に理事選出のお願いをする予定です。
- NPO 法人運営のため、北海道 NPO サポートセンターに登録することになりました。
- 183号会報の内容と、184号会報の計画について確認を行いました。
- 道言協(北海道言語障害児教育研究協議会)岩見沢大会において、親の会パンフレットとあわせて全国誌「ことば」も、展示と販売を行うことにしました。
- 全国誌「ことば」を、現在は各地区に1部ずつ郵送しておりますが、次年度からは各地区の追加購入希望をお受けすることになりました。追加分をあわせて各地区事務局宛に一括して送付いたします。追加分は年間600円とします(一般購入ですと年間1,000円です)。追加購入数により送料負担が発生する場合は、別途連絡いたします。追加購入希望調査は、例年行っている親の会アンケートと同じタイミングで行います。
- 親子デイキャンプ 8月19日(土)の収支報告がありました。北広島、岩見沢などの札幌近郊からの参加者もいらっしゃいました。184号会報で報告いたします。



事務局からの
お知らせ

(ホームページ案内)

北海道協議会では、ホームページでも
いろいろな情報をアップしています。
どうぞご覧ください。



URL:[http:// www7b.biglobe.ne.jp/~do-gengo/index.html](http://www7b.biglobe.ne.jp/~do-gengo/index.html)

○親の会の事務局連絡校は下記のとおりです。お問い合わせは下記までお願いします

〒060-0041 北海道札幌市中央区大通東 6-1 2

中央小学校ことばの教室内

電話(直通) 011-241-2533

○地区分担金の送金先は次の通りです。総会資料に同封した振込票をお使いください。

(ゆうちょ銀行の ATM を利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、ご負担をお願いいたします)

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 福井 紀郎



HSK 会報 昭和48年1月13日第三種郵便物承認(毎月10日発行)

2023年9月10日会報183号(HSK通巻618号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 福井 紀郎

定価 100円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東 6-1 2

札幌市立中央小学校ことばの教室内 Tel.011-241-2533